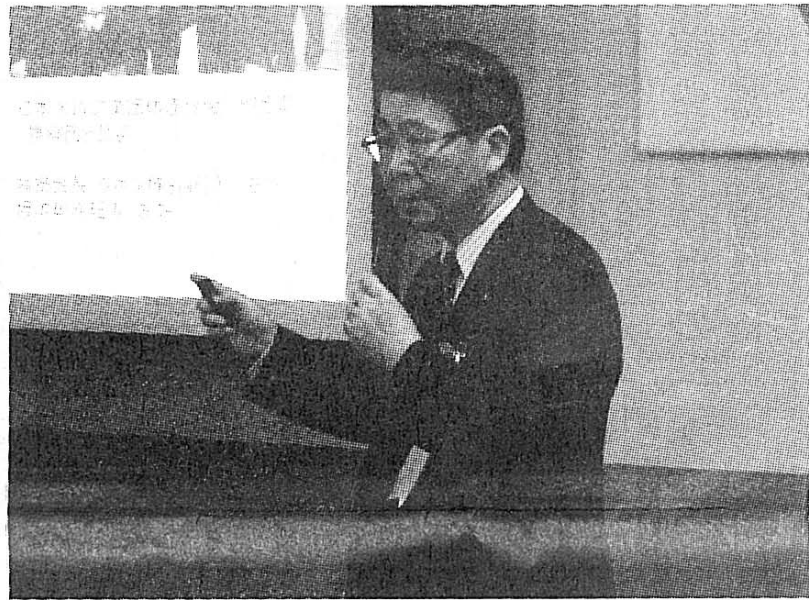


水ビジネス展望を披歴

水環境問題の専門家
吉村和就氏

小松電機産業で講演

総合水管理システム「やくも水神ネットワーク」などを扱う小松電機産業（松江市乃木福富町）は十五日、水環境問題の専門家でグローバルウォータージャパン代表の吉村和就氏による講演会を、



講演する吉村和就氏＝15日、小松電機産業太陽ホール

同社太陽ホールで開いた。浜田市内で導入された同社のクラウド型監視制御システムの視察会と合わせて行われ、水関連施設に対するクラウド管理の展望を示した。

吉村氏は、大手エンジニアリング会社で開発や経営企画などに携わった後、政府の要請で一九九八年に国連ニューヨーク本部に勤務。環境審議官として、発展途上国の水インフラ指導を担った。現在は日本を代表する水環境問題の専門家として国内技術を世界に広めるほか、国内外の多数のメディアに寄稿、出演している。

この日は、「これからの水ビジネス」と題して講演。危機的な世界の水資源状況とともに、クラウドによる水管理のビジネス展開を示した。

冒頭、吉村氏は人類が利用できる水は0・01%で、人口増加率の二倍が水需要であると指摘。「今でも水が足らず、今後は水不足が世界で一番の話題になる」とし、二〇三〇年まで水ビジネスが世界で最大の投資になると説明した。さらに海水の淡水化に目を向ける必要や下水の再生、工業排水のリサイクル分野が有望になると述べた。

水管理施設のクラウドマーケットについては、海外市場が増大傾向となる一方、人口減少で縮小均衡する国内でも、災害対策でクラウドが期待されていることを紹介。センサーや通信装置は全世界で大差がない状況を示した上で、競合他社とはデータの蓄積と解析が差となることを強調した。また、「ユーザーに対し、経営情報を含めたものまでサポートできるかが財産」と指摘。「いろいろな問題があるかを提案し、最終的には経営判断まで提案できれば世界中どこでも使える。水に関し過去のデータがどれだけあり提案できるか、という能力が問われている」とした。

小松電機産業は、「やくも水神ネットワーク」を二百九十自治体、六千施設が導入している。